

## 中国海軍 093B 核動力潜水艦の脅威

漢和防務評論 20180406(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

最近話題になった中国海軍 093B 型核動力潜水艦の脅威について、漢和は、台湾本島東海岸及び米国本土の戦術・戦略目標に対する精密攻撃が可能になったとし、中国海軍が戦略軍種として転換期を迎えた、と分析しています。また、中国海軍の問題点も指摘しています。



(Google Earth)

北海艦隊 093B 基地 (山東省青島市)、岸壁手前が 093B

平可夫

093B 核動力攻撃潜水艦 (SSN) の脅威は、台湾本島東海岸及び米国本土の戦略・戦術目標に対し精密攻撃が可能になったことだ。中国海軍は 093B の出現によって名実ともに真の戦略軍種となった。

これ以前、米国本土を攻撃できる海軍兵器は 094 型戦略核潜水艦 (SSBN) のみであった。中国海軍は、093B の出現により、陸から海、海から海、海から陸の攻撃が可能になり一大転換期を迎えた。

近年来、中国海軍は外洋進出を目的に大々的に拡充してきた。大規模な造艦計画は、わずか 10 年で 052C/D 型 DDG、055 型ミサイル巡洋艦及び空母を就役させた。現在、トン数から見ても、艦齢から見ても、中国海軍の戦力は、米国に次いで世界で 2 番目であり、欧州諸国の如何なる伝統ある海軍よりも大きく

なった。

しかし規模は大きくても、中国海軍は大規模な近代海戦の経験がなく、空母の数と質は米海軍とは比較にならない。中国海軍がシステム化された作戦能力を形成するためには、少なくとも更に 15 年以上必要であろう。

また対潜能力は依然として弱体である。現代の海戦では、艦載航空戦力、大量の高品質の対潜ヘリ、及び対潜哨戒機の支援がなければ勝利することはできない。この点から見ると、中国海軍の現在の實力は、陸上基地からの対潜、防空、航空戦力の支援を前提として、米軍を台湾海峡、南シナ海、東シナ海から隔離する程度の能力しかない。

しかし日本及び台湾海軍と大規模海戦を戦う場合、たとえ中国本土から離れていようとも、当然中国海軍はあらゆる領域で優勢である。

したがって中国海軍が陸上基地からの支援が不可欠な状況下では、第二列島線以遠の海域で米国海軍と対峙した場合、中国側に勝算はない。次に、中国海軍は、093B 誕生以前、米国本土に対する通常兵器による精密攻撃能力が基本的になかった。当然、JL-2 型海上発射戦略ミサイルには特種弾頭が用意され、作戦において、米国本土を攻撃する課題を保有していた。しかしこれは別の問題とされていた。なぜならこの種の攻撃は、規模が限定されたからである。

093B 出現のインパクトは、第一に隠密性、次に航続力である。理論上、093B は、隠密行動のまま如何なる地域にも進入し、地球上の如何なる目標に対しても精密攻撃ができる。残る問題は、訓練による練度向上、指揮官の素質、遠洋航海能力である。

最近 2 年間、中国の水上艦隊、及び空軍が頻繁に台湾東海岸に進出している。しかし実戦能力の点から見ると、相当劣り、政治宣伝の要素が大きい。航空優勢を大規模に獲得し、大編隊で台湾東岸に侵攻するのでなければ、H-6K 爆撃機や少数の SU-30MKK が台湾東岸に侵入することは自殺行為に等しい。

052D 及び中国空母艦隊が台湾東岸目標に精確な巡航ミサイル攻撃を行うためには、KDR 独自の図上演習で説明したとおり：台湾の F-16 戦闘機の作戦半径外、すなわち 1000KM 以遠から実施しなければならない。一旦米軍が参戦すると、この海域において、米国の核動力潜水艦は、中国空母や 055 ミサイル巡洋艦を粛々と攻撃することになる。

しかし 093B の出現によって、台湾東岸に対する現実的脅威は増大した。P-3C 哨戒機が 093B を発見できなければ、YJ-18 は大量発射能力があるので、対陸地、軍港、大型軍艦目標が攻撃を受ける。

第二は、米国空母艦隊に対する脅威の増加である。現在の潜在的脅威は、ロケット軍の弾道ミサイル攻撃であるが、これはどの程度正確に命中するものなのか？従来から実戦的な説明がない。KDR は相当疑問を感じている。

次は水上艦隊の対決である。航空優勢を欠く中国海軍水上艦隊は、米軍空母艦隊に対する真の脅威には成り得ない。米軍は、YJ-18 を搭載する中国水上艦隊を YJ-18 の射程外で阻止するであろう。米軍艦載戦闘機及び核動力潜水艦は 052C/D 及び 055 を有効に隔離することができる。

米国空母艦隊に対する真の脅威は、核動力潜水艦と AIP ディーゼル潜水艦である。そのうち 093B の脅威が最大である。後者は更に多くの YJ-18 を携帯することができる。093 の基本型と 093A を改修すれば、魚雷発射管から YJ-18 を発射できる可能性がある。093B の対艦攻撃能力は最も強烈である。

これらの能力を十分に発揮するにはどうすればよいか？残りの問題は訓練である。KDR の分析に誤りがなければ、今後 093B は、各大洋に頻繁に出入りする可能性がある。ハワイ、グアム、米国西海岸に接近、或いは大西洋まで航行する可能性がある。最初に航路に慣熟する必要があるからだ。戦時には、米国本土に対する精密攻撃を行うであろう。

093B は巡航ミサイル専用の攻撃潜水艦ではない。垂直発射機の数に限度があるからである。093B は依然として総合性能を発揮する SSN であり、対海上攻撃が主である。

095 シリーズは、巡航ミサイル核動力攻撃潜水艦に発展する可能性がある。24 発前後の YJ-18 或いはその他の型式の巡航ミサイルを携行する。当然これは KDR 独自の分析である。現在、095 の生産開始の兆候は未だ発見されていない。しかし大規模工場がすでに完成している。今後生産が開始されれば、生産速度は、相当速いと思われる。

093B は、曳航ソナーによって対潜能力が高められている。船体の外形の変化、排水孔の配置によって、設計師が 093A よりも静音化を図ったことが分かる。今のところ、093B は、日米海軍にとって最も対処が難しい中国潜水艦である可能性が極めて高い。

以上